

# 平成三十年度 入学試験問題

## 国語

### 第一回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから六ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

## 問一

——(1)「原生自然といえる時代の人間の文化」とありますが、これがどのような特徴を持つ文化なのかを簡潔に説明した語句を二十文字以上二十五字以内で抜き出しなさい。

## 問二

——(2)「人間社会が自ら文化の首絞めを行うようになってきている」とありますが、これはどういうことですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問三

——(3)「大自然と文化は共存するのでしょうか。」とありますが、筆者の主張する、共存可能なしかたとは、どのようなことですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問四

——(4)「エジプトはナイルの賜物だったのが、それを無視したが故に、賜物は消滅してしまったのです。」とありますが、これはどういうことですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問五

次のア～エの中で、自然と共存していると考えられるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 印鑑文化

イ 伝統文化

ウ 人間中心主義

エ 狩猟民族

## 問六

□A □D に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア また

イ ところが

ウ 例えば

エ それでは

## 問七

——(ア) (オ) のカタカナを漢字に書き直しなさい。

## 問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 象牙は高価であり、一部の裕福な人しか手に入れられないために、ゾウの密猟が起きている。
- イ 伝統や文化の多くは、自然を資源として成立していて、人間の傲慢によって成り立っているといえる。
- ウ 自然破壊の背景には、人間による自然からの搾取や人間を自然生態系の一部とみなす考え方がある。
- エ アフリカの大自然が減びても地球全体にはすぐに影響はないが、長期的には人工の代替物が不足する。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

95

90

85

80

75

70

65

---

130

125

120

115

110

105

100

問一 — (1)「あのむちゃな思いつき」とありますが、それはどのようなことですか。解答らんに行行以内で答えなさい。

問二 — (2)には両方とも同じ表現が入ります。ふさわしい五字の表現を自分で考えて答えなさい。

問三 — (3)に入れるのにふさわしい漢字二字の言葉を文中から抜き出しなさい。

問四 — (4)「もうあきるほど長い時間を過ごしてきた学校の光景が、ふつとぼやけた。」とありますが、これはどういうことですか。解答らんに行行以内で答えなさい。

問五 — (5)「最後にちゃんと話、しない？」とありますが、「わたし」が「花音」に、話したかったことはどのようなことですか。解答らんに行行以内で答えなさい。

## 問六

— (6)「打つ」とありますが、「打つ」を使った次の一〜五の成句の意味を、後の「意味」ア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 打てば響く      二 心を打つ      三 手を打つ

四 雪崩なだれを打つ      五 水を打ったよう

【意味】

ア 話し合いなどをまとめる。

イ しんと静まりかえっているようす。

ウ 深く感心させる。

エ おおぜいが一度におしよせる。

オ すぐに手がたえがある。

## 問七

A ~ E に当てはまる語を次のア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア こっそり      イ おろおろ      ウ ハツと

エ うっかり      オ ケロッと

## 問八

本文の内容に合うものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 蓮実はすみは、父親の転勤にともないボストンに行くことを決めていて、それは、父親こそが自分の心強い味方だと確信しているからである。

イ 蓮実の母親は、ボストンに行くかどうかどうするか迷いはじめていて蓮実に対して、自分の子どもころの話を交え、友情の大切さを説いている。

ウ 蓮実の母親は、花音の気持ちを理解してはいるが、蓮実がボストンに行くか行かないかは、最終的には蓮実に決めさせようとしている。

エ 蓮実は、自分が花音の味方であるという意識がなかったため、花音の気持ちがいれなくて、ボストンに行く決意がゆれはじめている。

